

医療維新

シリーズ 「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～

医療維新

2年目研修医が語るリウマチ・膠原病内科への憧れ◆番外編「研修医」

幼少期の恩人、憧れの医師がいる病院で

オピニオン 2019年3月10日(日)配信 JCHO四日市羽津医療センター 研修医 吉原 彰宏

吉原 彰宏 Akihiro Yoshihara
JCHO四日市羽津医療センター 臨床研修2年目

【略歴】三重県四日市市出身、2017年3月三重大学医学部医学科卒業。卒後はJCHO四日市羽津医療センターで臨床研修中。現在は2年目、後期研修は三重大学医学部附属病院のリウマチ・膠原病センターで行う予定。リウマチ・膠原病内科の専門家を目指す。



⇒JCHO尾身理事長が語る「研修医」はコチラ

僕は生まれつき気管支喘息でした。物心がついた時から、少し走るだけで喘鳴が出て苦しくなる運動発作を起こしていました。そのために幼稚園や小学校に上がってからも掃除や体育の時間など、友達と一緒に過ごせない時間も多く、悔しい思いをしていました。ある日、大発作を起こし救急車で病院に運ばれました。それが、JCHO四日市羽津医療センターの前身である四日市社会保険病院との出会いでした。そこで診察してくださったのが、現副院長である小児科医の渥美伸一郎先生でした。診察後、治療を受けてすごく楽になったことを今でも覚えています。このことが医師を目指すきっかけになり、四日市羽津医療センターに就職することになったきっかけの一つでもあります。



研修中の様子1

当院を選んだ理由は大きく分けて2つです。1つ目は一度自ら受診してお世話になった医師が今も副院長として在籍しておられることです。2つ目は大学6年生時のクリニカルクラークシップで、膠原病・リウマチ内科の実習で当院に来た時、尊敬する医師に出会えたことです。

膠原病患者のさまざまな愁訴を、丁寧な診察・問診と論理的な臨床推論で診療する佐藤良子先生と小寺仁先生に憧れを抱きました。お二人との出会いをきっかけに膠原病・リウマチ内科を専門にしよう決めました。全身疾患であり、腎臓内科・呼吸器内科・皮膚科・眼科・整形外科など、多くの診療科にまたがる症状を診なければならず、スペシャリストでありながらジェネラリストであるリウマチ科医に強く興味を持っています。

苦悩の末に得たもの

医師を目指す過程では、月並みかもしれませんが浪人して1年間予備校に通ったことがつらかったです。この1年間は「一生医師にはなれないのではないか」や「今の自分は周囲からどう映っているのだろうか」など、劣等感と自責の念にさいなまれる日々でした。要領の良い方ではなく、器用でもなかったので、ひたすら勉強に打ち込むことでしか不安は打ち消すことができませんでした。これほど自分を追い詰めてしまう日々はもう訪れないでしょう。その分、合格を手にした時の喜びは筆舌に尽くし難いものでした。その過程があったからこそ、現在の自分があると思います。

研修医2年目となり、救急外来、病棟管理、診察技術、手技など全てに戸惑っていた入職した頃の頃と比べると、自分でできる範囲や知識の量も格段に成長したと感じます。そう感じる故に、「決めつけてしまっていないか」「先入観を持って診察に臨んでしまっていないか」が常に課題になっています。パッと特異的な検査値や身体所見に飛びついてしまいそうになる自分を抑え、一步引いて全体を診ることを心がけています。

三重県におけるリウマチ・膠原病領域は圧倒的に医師が不足している状態であり、膠原病の類縁疾患であっても、皮膚科や整形外科、腎臓内科の先生方に非専門領域でありながら診療していただいている現状があります。10年後、20年後に実現可能かどうかは分かりませんが、三重県のリウマチ・膠原病内科を牽引していく存在でありたいと考えています。具体的な職位については考えていません。



患者側の時、医学生の時、医師になってからも多くの医師と出会いました。医師に対しては、志した理由を尋ねると、「成績が良かったから」「自分が病気だったから」「親が医師だったから」とさまざまな理由の方がいました。入り口は人それぞれで良いと思いますが、一番大事なのは自分が患者さんと対面したときに「この人は絶対に自分が助けるんだ」と使命感を持つことだと思います。「後で上級医が診てくれるだろう」「〇科にコンサルするし、ちゃんと診てくれるだろう」という気の緩みがあると診察の眼も鈍り、病歴聴取も疎かになると僕は感じます。

研修中の様子1

その使命感が、患者さんとの信頼関係形成の基盤となり、自分を成長させてくれる糧になると、考えています。医師を目指してくれる後輩たちには、そういう使命感を持つ医師になってくれることを期待しています。

番外編「研修医」記事一覧

- ・ 医学部再受験、有機化学の研究者から転身
- ・ 目標は「ハイブリッド脳神経外科医」
- ・ 研修医生活後は離島診療へ
- ・ 2年目研修医が語る憧れ
- ・ Coming Soon

⇒JCHO尾身理事長が語る「研修医」はコチラ

シリーズ [「医学部卒後10-15年目の医師たち」～JCHO編～](#) »